

交換留学(派遣)近況報告書



留学先での生活はいかがですか。本報告書は以下の目的のために使用されます。
 ① 皆さんの近況等を把握するための資料です。何か困ったこと等があれば、本報告書に限らず速やかに教務係までご連絡ください。
 ② 留学を考えている後輩達のための有益な資料となります。留学経験を共有するために、ぜひご協力ください。

本報告書は写真データと共に提出してください。(提出締切日12/7)

あなたの情報(本報告書を閲覧する際には、あなたの氏名、学籍番号、メールアドレスは公開されません)	
留学先大学:	ウィーン経済・経営大学
留学先での所属学部・研究科:	経済・経営学部
留学先での在籍身分:	交換留学生
留学期間:	2025/09-2026/07(予定)
神戸大学での所属学部/研究科:	経営学部
学年(出発時):	3回生
本報告書記入日:	2025/12/4

1. 出発前について		
1-1	交換留学以前に海外留学の経験はありますか。 「はい」の場合、留学先及び留学期間を記入ください。	いいえ
1-2	この留学プログラムを最初にどのように知りましたか。 その他を選択した場合、記入してください。	その他 YOUTUBEの東進ネット
1-3	このプログラムに参加した動機を教えてください。 学術的な目的(研究を深めるなど) 語学力の向上 プログラムの時期がちょうど良い プログラムの長さがちょうど良い かかる費用がちょうど良い 地理的な条件が良い 将来のキャリアのため(就職に役立つなど) 家族のバックグラウンドと関係がある 異文化を体験したい その他(具体的に記入)	最もよく当てはまるものから順に4つまで選んで順位をつけてください。(1:最も強い動機) 4 3 7 6 8 5 2 9 1
1-4	出発前にどのように情報を集めましたか。参考になる本やホームページがあれば記入してください。	主に留学していた先輩や西村先生をはじめとした大学関係者の方々。どのような授業を取っていたのか、どのような街なのか、旅行のしやすさは等同学年の間で情報交換をしながら進めた。
1-5	VISAについて VISAの種類: 申請先: 必要日数: VISA取得にかかった費用: VISA申請のために求められた書類: その他、VISA申請の際のトラブルや、注意すべき点があれば記入してください。	MA35 ウィーン市 2-3週間ほど 130€ほど 犯罪証明書(アポスティーユ)や資金証明書等 書類はもれなく提出することが求められる。ウィーン大学からのサポートメールで必要書類の案内が出発前に来る、10月初めに日本人向けのビザの説明がある。その内容に従えば特に問題はないと思われるが、念のためインターネット上の情報も参考に必要書類の確認をすべきだ。
1-6	出発前に必要とされた予防接種の種類・回数・費用	なし
1-7	大学で加入するOSSMAと上乗せ海旅以外に加入した保険があれば教えてください。 また、現地で加入した保険があれば記入ください。	Care Concept(VISA申請に求められたため)
1-8	その他に必要だった手続き、方法、料金等	ウィーン到着後(おそらく入寮後)3日以内に区役所にて住民登録(25€ほど)

2. 留学先到着後の手続きについて

2-1	到着時について	
	利用旅行会社(航空券の手配をした会社):	エバー航空
	到着空港名:	Vienna International Airport(VIE)
	空港到着時間:	現地時間8:00
	到着地からの移動手段:	公共交通機関(バス・鉄道)
2-2	移動の所要時間・料金:	1.5時間(Airportから市内までは専用路線で1.8€ほど。市内に着き寮までは2-3€ほど。)
	到着地からの移動で注意する点があれば記入ください。	ウィーン市内は時間帯乗り放題のチケットを購入することでトラムやバス、地下鉄が乗り放題である。しかしウィーン市外、つまり空港からは別のチケットを購入しなくてはいけない。OBBという専用アプリがあり、そこで購入可能。フィジカル切符も買えるはず。
2-2	住居について	
	住居のタイプ:	大学寮
	その他を選択した場合、記入してください。	
	住居(寮、アパート)の名前:	Kandlegasse
	部屋の種類:	一人部屋
	その他を選択した場合、記入してください。	
	ルームメイト:	リストから選択してください
	その他を選択した場合、記入してください。	
	住居の探し方:	大学の斡旋
	その他を選択した場合、記入してください。	
2-3	大学までの通学時間・手段:	40分かかるほど
	住居の周りの環境はどうですか。	良好。現地民にも住みやすい通りと評判が良い。治安面でも比較的ファミリー層が多く身の危険はある感じない。スーパーも徒歩5分圏内に数か所あるので便利である。バーも比較的多い。トラム、地下鉄、バスともに徒歩6分圏内にあり移動手段が豊富である(これはどの地区にも言えるのかな)。
2-4	毎日の食事はどうしていますか。	基本は自炊。大学の食堂あまり使わない。授業の合間に帰ってきてご飯を作りまた出向くというリズム感。大学内にスーパーがあるので軽食を買うこともある。
	住居は渡航前に、または渡航後すぐに見つかりましたか。トラブルはありませんでしたか。	はい。大学の紹介でOEADという団体が運営する住居から選ぶのが無難であると考える。自分で探して安く借りている人もいるが、必要書類のお知らせや、鍵の受け渡し等のサポートを考えるとノーストレスで入寮できた。
	留学生向けオリエンテーションについて	
2-3	留学生向けオリエンテーションの有無について:	有り
	参加義務について	任意
	参加費用:	有料
	有料の場合、金額:	250€ほど
	オリエンテーションの内容を記入してください。	約二週間9月の中旬からウィーン市内での名所めぐり(ガイド付き)やGrazなどの市外の都市へday tripが計画されている。
2-4	その他、渡航してから必要な手続きについて	VISAの申請、住民登録、kickoffmeetingでの学生登録
	現地で滞在許可申請は必要ですか。必要な場合、申請方法、料金、取得に係る日数等を記入してください。	上記記載のVISAがメインである。日本から必要書類を持参し、ネットで予約、in personでの書類の提出と受取で完了
	その他、現地到着後にした手続き(健康診断、予防接種等)があれば、方法、料金等を記入してください。	なし

3. 語学力向上のためのコースについて

3-1	語学力向上のために、大学等のコースに参加しましたか。参加した場合、大学(語学学校)名、コース名、料金、期間等を記入してください。	上記記載の任意オリエンテーションと並行して2週間のドイツ語クラスに参加。
-----	--	--------------------------------------

4. 大学の授業について

4-1	履修登録について 履修登録の時期: 履修登録の方法: その他を選択した場合、記入してください。	出発前 オンライン
	登録時に留学生として優先・配慮はありましたか。	無し
	優先・配慮があった場合、具体的に教えてください。	留学生には留学生の枠が用意されている。その枠を留学生で取り合う。
	希望通りの授業が履修できましたか。	はい
	希望通りの授業が履修できなかった場合、その理由を教えてください。	
4-2	現在までに履修している授業について記入してください。	クリックで別シートへ
4-3	一週間のスケジュール(授業時間、課外活動等、毎日の生活)を記入してください。	クリックで別シートへ

5. 現在までの感想を自由に記入してください。(800字~)

ウィーン経済・経営大学(以下WU)を選び良かったと思っていること、自分なりの発見を3つの観点から述べる。

まずは学習面。自分はグループ内での貢献の仕方やプロジェクトの進め方、知らないトピックに関してどう向き合うかといつたいわゆるソフトスキルの獲得に重点を置いている。その点、概念的な講義かなと思える授業でもプレゼンの機会やインタラクティブなセッションが設けられていること、コンサルティングファーム等実務での経験のある講師やゲストスピーカーとの関わりが多く彼らの知見を学び入れることができる授業が多いWUは自分の目的に合致した大学である。プレゼンに関しては授業外でグループで活動することが多くなり、自然とコミュニケーションの機会も増え彼らの考え方やプロジェクトの進め方に触れる良い機会になっている。そして多くの授業ではプレゼンに関してコーチングセッションが複数回設けられており、教授からのアドバイスをもらい改善していくといった「丁寧な」教育を受けられている。ただ自分たちの自己満で発表してきたこれまでと違い、他者の視点を入れ、限られた時間内ができるだけ良い成果物を作ろうとする制度設計とチームメンバーのコミットには学ぶことが多い。

このような筆記テストがメインでない授業を取っていると、必然的に自分でその活動の意義を見出さないといけなくなる。プレゼンでいうとどこまでコミットするかは自分で決めることができる。何を自分を納得させる成果物とするのかを改めて考える機会になっている。与えられた質問について回答するスライドを作り満足するのか、その質問の意図、プレゼンの場面設定を考え、できる限りの情報を集め、情報が見つからないのであれば推定してその過程を示すのか、想定質問を考えAppendixを充実させるのか。授業外であれば時間は有限とはいえないでもコミットできる。ただ、これを自分の意志で決めることは自分にはなかなか難しい。その点、WUには授業外で定期的にミーティングを組み議論する時間を作ったり、自分が得た情報を共有したり、他人の働きを見てより良い成果物を要求したりしてくれる学生や高い明確なコミットメントを要求してくれる教授が多く、自分の取り組みを一段階、二段階深めてくれる環境が整っていると感じている。これが自分が求めていたソフトスキルだと実感するとともに、しっかり自分の血肉になるように一つ一つ取り組まないと想っている。

次は語学面。英語力という観点では知識面とコミュニケーション面の二つの面から考える。まず知識面では、自然に会話していれば伸びていくというわけでもないと考えている。英語で交流しながら「ああ、こうやっていうんだ」というようにまねて覚えることもあるが、自分で日本にいたときのように英単語長やYoutubeで知識のインプットをしていかないといけない。前者でいうと授業を録音し、表現をそのまま暗記したり、友達との会話で良い表現が出てきたら書き留めたりする工夫をしている。後者でいうとひたすらインプットするしかないが、日本にいるときと違ってすでに3ヶ月ほど住んでいるため「この場面で使えるな」というより実践を意識した学習ができていると感じている。コミュニケーション面では相当苦労した。まず会話の質が日本語と違う。日常的に使う言葉の質や会話の内容が違うと、当然日本語のコミュニケーションに適した表現かつ思考しかしない頭であるから言葉がでてこないのである。思ったことをすぐ言うこと、自分の体験を話すこと、質問を投げかけることなど日本語ではない会話が中心になることが多いと実感している。克服するためにひたすら友達と一緒に出掛ける、英語でしゃべる環境を生み出す、会話のテンポをまねる等、体に、頭にしみこませていく努力を怠らないようにしたい。

最後は生活面。自分は「なるべく家にいる時間を減らし、外に出て、人と関わり、知らないことを体験する機会を最大化する」という留学像を持ってVienna、そしてWUを選んだ。そしてその目標を満たすには十分な環境があると確信している。その理由はいくつかあるがまず暇になることがない。大学では授業内外でのグループ活動が多く沢山生徒と関わり彼らの英語やプロジェクトの進め方を盗むことができるし、日々のコミュニケーションは必然的に増える。そして寮の外に出れば無数のケバブ屋と歴史溢れるbuildings。残念ながら興味がないオペラや芸術にも触れる機会が多く、その芸術をデジタルデックスの一環として捉えることで独特な時間を体験している。そしてinternational student向けの学生団体が主催するイベントの数々、大学主体のオリエンテーションを得て知り合った友人とviennaの街を駆け巡る、まだ知らない現地の料理、お店、イベントに顔を出し思い出を共有する瞬間は三ヶ月たった今でも不思議に感じる。20年間別の土地で生きてきた人がWUを選び同じ時期にやってきた。彼らの考え方、知識、日本への考え方を聞きながら、時間を共有しているその瞬間を忘れないといふに死に書き留める。また、縁があってウィーンで日本人として活動している現地の日本人コミュニティの方々、日本大使館との関わりやクリスマスマーケットをはじめとした何か必ず週末にイベントがあるとWienerの街。やることに尽きることはないと思われる街である。そして疲れたらスペイン人がパーティーを毎日のようにしている寮に帰り休むことができる寮。幸い窓を閉めれば騒音で寝れないことはない(むしろ日本の時の方が隣人が迷惑であった)。そして何より、近隣諸国へのアクセスはトップクラスのオーストリア。彼らとWienerの街を超えて、オーストリアの国境を越え、知らない世界を見に行きやすい立地面も文句なし。

追記:

Wiener到着後約一ヶ月は英語を話すことの恥ずかしさ、街を日本人、アジア人として歩くことへの違和感を覚え背筋を伸ばして歩けない時期があったことを今でも鮮明に覚えている。一回一回のコミュニケーションを反省し、打ちのめされていた時期ではあったが、幸いにも立て続けにあったドイツ語の集中講義やオリエンテーション、留学生向けのアクティビティが体をベットから引き起こし、街に繰り出してくれた。時間を忘れるほど予定に埋め尽くされることで気づけばあんなに待ち焦がれていたヨーロッパの暮らしも残り7ヶ月。もうすぐセメスター終了に伴い別れる友人も出てくるが、彼らとの思い出を少しでも多く作ろうと努力しないといけない。西村先生に去年の今頃そろそろ為替について考えた方がいいよという助言に従わず円安に苦しむ今も、英語やファイナンスの勉強の仕方をもっと早くから変えていればと思う今も、あのときもっと会話をうまくできていたらと思う今も、it is never too lateを心に刻み、必死に今を追いかけていきたい。(円安に関しては帰国まで苦しむことは間違いないが)、この円安の苦しみもこれから留学する人、そして将来を生きる自分に活かせるように留学を遂行したい。

クリスマスマーケットで街がにぎやかになり寒さを忘れるほどの活性化。クリスマスでいうと恋愛、恋愛でいうと様々な人と関わる中でその価値観も大きく変わってきた。日本では異性へのコミュニケーションにうまく踏み込めなかつ自分も気づけば女性の友達を作ることができている。北半球は季節が変わりクリスマスシーズンに入ろうとしているが、少し、少しだけ、春の訪れを感じている。

6. 留学経験の共有について**あなた自身の写真や大学キャンパス等の写真があれば、ぜひ報告書と共に提出してください！**

6-1	あなたの報告書の一部を引用して、本学の印刷物やウェブサイトに掲載することに同意しますか？	はい
6-2	あなたの写真を本学の印刷物やホームページに掲載することに同意しますか？	はい

ご協力ありがとうございました。本報告書は大変有益な資料になります。
残りの留学生活が楽しく実り多いものであることを神戸大学教職員一同、祈念しています。

4-2 現在までに履修している授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数／週	留学先での単位数	授業での使用言語	履修している学生数	予習、復習、テスト等の成績評価についてアドバイスも含めて教えてください
1	Sustainability and Responsible Marketing	Igor Todorovic	3 h	4	英語	20	二週間の集中講義。企業がどうサステナビリティに向き合えばいいのかをマーケティングの観点から考える。基礎的な概念の説明に加え実際の企業の取り組みについて議論する。最終課題は企業をグループで選びサステナに関する取り組みを分析、改善案の提案のプレゼン及び筆記テストである。留学生が多く、かつ朝8時からとあってかあまり積極的なクラスではなくただ出席して発言となる学生がほとんど。内容も正直基礎的かつ概念的である。
2	Leading Globally	Manfred Huckle	6 h	4	英語	不明	一番取りたかった授業で楽しみにしていたが他の授業とのオーバーラップにより断念。次セメスターで履修を再度狙う。(非常に集中的な講義で一回の休みも許容してくれない)
3	Course V-Corporate Finance: Principles and Practice	KPMG	3. 5 h	4	英語	20	KPMGにて実際の社員からM&Aのプロセスごとの説明がある。基礎的な概念の説明が中心ではあるが、時々ケーススタディーがあり実務ではどのような観点でその知識が応用されるのか確認していく。会社の一室を借り非常に厳かな雰囲気で、生徒が手を挙げ発言しながら議論が進む。雰囲気が重い。
4	Sustainable Finance	Edith Littich	2. 5 h	4	英語	30	サステナの話題をファイナンスの観点から議論。実際にハーバードのケーススタディを用いた宿題や企業のサステナの取り組みについてのプレゼンが用意されている。また現地銀行のアセットマネジメントサステナ部門の方の講演があり実際にどのような基準で企業を選定しているなど実務的な観点も取り入れた授業になっている。サステナとなると概念的な話に偏りがちな授業が多い中で、サステナを様々な角度から考えている良い機会になった。
5	IB : Market entry analysis in venture capital and corporate strategy	Frederic Ritter	3 h	4	英語	30	元ペインの講師がプレゼン・調査のお作法を授業で教えてくれる。後は授業外でオーストリア企業のアメリカ進出についてのmarket analysisをグループで行う。いかに情報を集め、構築するのか深い思考が求められる。グループ内での議論やプレゼンスキルと全体的なソフトスキルを身に着ける最適な授業であるという認識だ。
6	IB : Sport and International Business	Jakob Mullner	3 h	4	英語	30	授業のゴールはオーストリア商工会議所にオーストリア企業の他地域進出をスポーツ産業に絡めて提言するというもの。授業はデータの集め方等プロジェクトの進め方の講義に加え、ゲストスピーカーを毎講義迎え実際のスポーツビジネスについて教えてもらう。このゲストが豪華で、オーストリアサッカーチームのCEOやスポーツテックカンパニーの創業者、マッキンゼースポーツ部門担当者等、幅広いゲストからのプレゼンと質問機会が用意されている。スポーツに特化していることで当然スポーツに興味のある学生が多く、授業も非常に活発である。そしてあくまでビジネスの文脈として基本的な調査の進め方も丁寧に構築されている講義だ。

・授業(カリキュラム等)について クラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

当然生徒、授業によってまちまちであるが、比較的授業や課題に取り組む姿勢は日本にいたときと比べ高いように感じる。あくまでも大学の授業であるため、どこまでコミットするのかは人によって異なるが、プレゼンのデザインの質、論理性、情報の正確性等グループ内で指摘しあうほどにコミットレベルは高いと感じる。もう一步、もう二歩詰めないといけないという意識のレベルの高さは感じるが、レベル感に関しては敵わないというよりかはやるかやらないかのに二択である。また授業の質に関しては非常に満足度が高い。やはりオーストリアのトップビジネススクール(というかWUしかない)ということもあり現地企業との関わりや教授のインタラクティブなコミュニケーションが多いと感じる。これは神戸大学ではできない経験であると率直に感じている。

4-3 一週間のスケジュール 授業時間、課外活動等、毎日の生活を記入してください。

	月	火	水	木	金	土	日
8:00	起床						
9:00							
10:00							
11:00	授業						
12:00							
13:00							
14:00	飯	飯	飯	飯	飯	飯	飯
15:00							
16:00	課題						
17:00							
18:00	自由時間(ワインはアクティビティが非常に豊富である。)						
19:00							
20:00							
21:00							
22:00							
23:00							